

特定外来生物等専門家会合で条件付特定外来生物（通称）に指定することが適当とされた
外来生物の概要

種類名	学名	評価の理由
アカミミガメ	<i>Trachemys scripta</i>	<ul style="list-style-type: none"> 全国各地に定着しており、在来カメ類と競合（日光浴の場所や食物等）が生じ、在来ガメ類に影響を及ぼす。また、食性が多岐にわたるため在来生物群集に大きな影響を与えると考えられる。 ペットとして大量に輸入された過去があり、2019年時点の飼育数は約110万世帯/160万匹、野外では約930万個体が生息すると推定されており、飼育個体の放逐による拡散リスクがある。頑強で汚染に強く、都市部の汚れた水域でも生存できるため、一度放逐されると定着する可能性が高い点も脅威と考えられる。
アメリカザリガニ	<i>Procambarus clarkii</i>	<ul style="list-style-type: none"> アメリカザリガニは多様な小動物を捕食したり水草を切断して水生植物群落を破壊することで劇的な生態系の変化を引き起こす。既に日本全国に広く定着しており、水生植物の消失や水生昆虫の局所的な絶滅を引き起こしているほか、魚類や両生類などの生息に悪影響を及ぼしている。また、ザリガニペスト（アフアノマイセス菌）や白斑病のキャリア（保菌者）になることから、ニホンザリガニの生息地に侵入すれば、ニホンザリガニを含む淡水生態系に大きな影響を与える可能性がある。 身近な水生生物として親しまれて釣りや飼育が多く行われており、飼育個体等の放逐による拡散リスクが常に存在する。